中野区教育委員会会議録　平成２５年第９回定例会

○開会日　平成２５年３月１５日（金）

○場　所　中野区教育委員会室

○開　会　午前　１０時００分

○閉　会　午前　１０時３０分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	高　木　明　郎
中野区教育委員会委員	大　島　やよい
中野区教育委員会委員	飛鳥馬　健　次
中野区教育委員会委員	山　田　正　興
中野区教育委員会教育長	田　辺　裕　子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	髙　橋　信　一
副参事（子ども教育経営担当）	白　土　　純
副参事（学校再編担当）	石　濱　良　行
副参事（学校教育担当）	宇田川　直　子
指導室長	川　島　隆　宏
副参事（知的資産担当）・中央図書館長	天　野　秀　幸
副参事（学校・地域連携担当）	荒　井　弘　巳
副参事（子ども教育施設担当）	伊　藤　正　秀

○担当書記

子ども教育経営分野	片　岡　和　則
子ども教育経営分野	仲　谷　陽　兵

○会議録署名委員

委員長　　高　木　明　郎

教育長　　田　辺　裕　子

○傍聴者数　　２人

○議事日程

〔議決案件〕

日程第１　中野区教育委員会委員長の選挙

〔報告事項〕

（１）委員長、委員、教育長報告事項事

中野区　教育委員会
第９回定例会
（平成２５年３月１５日）

午前１０時００分開会

高木委員長

おはようございます。

教育委員会第９回定例会を開会いたします。

本日の委員の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、田辺教育長にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、日程に入ります。

＜議決案件＞

＜日程第１＞

高木委員長

日程第１、中野区教育委員会委員長の選挙を行います。教育委員会委員長の任期については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条第２項の規定により１年と定められており、私の委員長としての任期は本年３月27日をもって満了いたします。

したがいまして、同法第12条第１項の規定に基づき、平成25年３月28日からの１年間を任期として、次期委員長の選挙を行いたいと思います。

ここでお諮りをいたします。

中野区教育委員会会議規則第５条第１項の規定に基づき、委員長の選挙の方法については指名推選によることとし、指名の方法については委員長の私が指名することにしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（異議なし）

高木委員長

ご異議ございませんので、選挙の方法は指名推選によることとし、指名の方法は委員長の私が指名をすることと決定いたしました。

それでは、次期委員長に現委員長職務代理者の大島委員を指名いたします。

ここでお諮りをいたします。

ただいま指名いたしました大島委員を次期委員長の当選人と定めることにご異議ございませんか。

（異議なし）

高木委員長

ご異議ございませんので、次期中野区教育委員会委員長に大島委員が当選されました。

＜報告事項＞

高木委員長

それでは報告事項に移ります。

＜委員長、委員、教育長報告事項＞

高木委員長

委員長、委員、教育長報告です。

私から３月８日の第８回定例会以降の主な委員の活動について、一括して報告いたします。

３月13日水曜日、平成24年度中野区立学校退職校長感謝状贈呈式。私と大島委員と教育長が出席されました。私からの報告は以上です。

それでは大島委員、お願いします。

大島委員

私は３月12日の午前中に新井小学校、午後は上高田小学校を訪問してまいりました。この日は、学年末に近づいてはいるのですが、まだ通常の授業を行っている日でした。学校の様子は、両校とも授業も落ち着いて行われているように見受けられました。また、上高田小学校では、校庭で体育の授業で野球をやっていたりして、すごく活気があるような雰囲気を感じました。

校長先生にいろいろお話を伺ってきたのですが、新井小学校のほうは今現在、13クラスとこだま学級があると。４月からは14学級になるということで、なかなか学級数が多い学校で、教室の手配なども工夫をされるということでした。

教育活動については、全体に学校の生徒の様子は落ち着いているということと、合唱コンクールに参加するということに力を入れていて、東京都の合唱コンクールに参加したりしているということです。

それから、今のところいじめについては大きな問題はなさそうだということなのですが、先生方で必ず週１回は情報共有のための会議を開いていて、何かあったらお互いに知らせ合うというようなことをしていることと、専科の先生、合唱の指導などもそうですが、音楽や美術の専科の先生も、すごく全校生徒の状況をよく把握しているというところが大変いいところだというようなことを言っていらっしゃいました。

新井小は、「新井のまちの新井小学校」と看板が大きく書かれているぐらいで、すごく

地域の方が支援してくれるという、地域にすごく密着しているというか愛されているところが特徴だというようなお話でした。

あとは、やはり若い先生がすごく多いということで、先生の研修制度についての話もありまして、東京都の研修センターというようなところに、何年か経験した後で先生が休職して、そういうセンターでまた勉強し直すという制度もあって、そういうものを活用している先生もいらっしゃるし、それから中野区でやっているマイスター制度がとてもいいというふうにお話されていました。そういうことを目指して先生が自己研さんするということがとてもいいのではないかというお話でした。

上高田小学校のほうは全部で９クラスということなので、単学級の学年もあるということです。それがちょっと寂しいというか、全体に学校の規模とか、先生の数が少ないので、ちょっと寂しいという感じはいたしました。

上高田小でやっていることで、先生が大変いいなと思っているとおっしゃっていたのが、子ども面談というのを年に２回やっているそうで、これは年に２回、担任の先生が子どもを１人ずつ呼んで、例えば給食が終わった後の休み時間とかに１人ずつ呼んで、いじめに関することや、その他、気になることなどの聞き取りをするということで、いじめの芽を摘むといいますか、子どもの状況もすごくよくわかって、とても成果が出ているということで、これからもやっていきたいというふうに言っていらっしゃいました。

やはり上高田小でも、若い先生が多いということで、先生を育てるということがすごく課題だということをおっしゃっていて、新井小と図らずも同じことが課題だということです。若い先生の授業力を向上させるということも課題だと。

昔は先輩の先生の授業を頼んで見せてもらったりして成長するみたいなことを自発的にやったものだというような話で、今はＯＪＴの取り組みとかもやっているし、それは大変いいことではあるのだけれども、若い先生も自分から積極的にやってもらいたいなということもおっしゃっていました。ただ、やはり規模が小さい学校ですと、なかなか先輩の先生という方も少なくなったりして、その辺のところが課題だなということをおっしゃっていました。

両方の学校とも、やはり子どもさんたちが校庭で運動したり遊んだりしているのを見ると、素直に「学校っていいな」というようなことを感じまして、いろいろな課題については、また教育委員会も協力して対処していかなければいけないな、ということを感じたところでございます。

以上です。

高木委員長

山田委員、お願いいたします。

山田委員

私は３月11日に東京都学校保健会の会議がありまして、それに出席いたしました。東京都学校保健会では、各地区にあります学校保健会からの、年度末でありますので、１年間の事業の報告とその課題についての説明があって、多くの地区からの出席がありました。

残念ながら中野区は出席がなかったのですが、そんな中で、課題としては結核健診の問診票です。結核は今、問診票によってリスクファクターの高い子どもたちを発見することをやっているのですが、国で示されたもの、また、東京都で示されたものの日本語版ではなく、外国語版がほしいというような地区がございました。

23区の中の、例えば新宿とか港、江東などは独自でというところもあるようですけれども、英語版と中国語版と韓国語版をつくっているということで、そういったことで外国人の保護者の方に対応するようにということでやっているということです。中野区がどういうふうになっているか、後で教えていただきたいと思うのですが、ただ、その３か国語だけでは足らないのではないかというのですが、なかなか翻訳する方が少ないので、できれば東京都教育委員会、もしくは国の文部科学省のほうで翻訳をしっかりしてほしいというようなご要望があって、出席していました東京都教育局の事務の方は「部署は違うのですが」という前置きながら、なるだけ前向きに検討したいと話してございました。

過去１年間の中で、いろいろな学校での取り組みが、各地区でさまざまに取り組まれていると。活発にやっていらっしゃるところは講演会を２回ぐらい開いていて、学校三師の皆さんと、教育委員会と、それから養護の先生がそれに参加をして連携がとれているということでありますので、本区もそうした事業ができるよう、私は願っているところであります。

13日の水曜日でございますけれど、中野区立第八中学校に招かれまして、性に関する指導ということで、約50分間の講演をしてまいりました。

この日は、皆様方、風がすごく強かった日ですよね。到着しましたら、八中は前庭という庭がありますが、あそこを子どもたち何人かと、多分、副校長先生だと思うのですが、掃除をしていたのですけど、あの風の中で、多分、やってもやっても大変だったのだろうなと思うのですが、きれいに整備をされておられました。

その道路を隔てた体育館のほうで講演をさせていただきました。毎年この時期に、３年生の生徒さんのために講演をするわけですが、あと１週間足らずで３年生は卒業というときであります。このときがタイミングとしていいのかどうか私もちょっとわからないのですが、実は子どもたちもモチベーションが少し卒業のほうに向かってしまっていてということでありますけど、熱心に聞いてくれる生徒もいらっしゃいましたし、あまりそれに参加しない子どもたちもいたというところでありました。

ただ、残念なのは、最近私も一方的に講演するのはどうかなと思って、ときどきクエスチョンを入れるのです。例えばＨＩＶの感染者は、日本ではふえているのか、減っているのか、現状維持なのか。それは保健体育の教科書の、中学校の第３学年では出てくるグラフがあるのですが、そういった問いかけにも反応がありませんでした。それでもやはり中学校で義務教育が終わるということで、生命の誕生とはどういうことなのかということを中心にお話してきました。

それと、前にもお話しましたが、ｉＰＳの細胞というのは、もともとはエンブリオニックステムセルということで、受精卵から発達したものを今度はｉＰＳにかえたという山中教授の画期的な発見があったわけですから、その辺もちょっと最近の話題ということで話してまいりました。

これからも機会があれば、子どもたちと一緒に生命というのはどういうことなのか、その誕生にはどんなことの要素があって、どんなことであなた方は世に出たのかということを中心に、一緒に勉強できる機会があればいいかなと思っております。

私からは以上でございます。

高木委員長

飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

特にありません。

高木委員長

教育長、お願いいたします。

田辺教育長

３月11日の月曜日ですが、震災から２周年ということで、宮城県岩沼市というところの追悼式に出席してきました。

中野区は震災発災直後からさまざまな形で被災地に支援をしているのですが、人的に継

続して支援をさせていただいている東松島市、岩沼市、亘理町の追悼式に、区長、副区長と私が招待されましたので、私は岩沼市のほうに出席をしました。

時間的にちょっと余裕があったものですから、被災地の実際に被害に遭った地域にも連れて行ってもらったのですけれども、一応、瓦れきは全部撤去されていまして、一面何もないところがずっと続いているのですが、それ以上、再建するという動きにはなかなかなっていなくて、ただ、田んぼや畑が塩害といいますか、塩で浸かってしまっているので、土壌改良工事が非常に行われていて、少しずつですけれども、復興に向けた取り組みはされているのかなというふうに思いました。

岩沼市は当時、人口が４万4,000人いたのだそうですが、亡くなられた方が196人ということで、被害に遭った住居が5,428戸ということで、世帯数からすると３分の１ぐらいが被害に遭っているのですが、市域が広いので、割と奥まったところまで市の地域になっていますので、全体から見ると被災された面積が少ないということで、集団移住も被災地で一番先に始められたり、瓦れきの山のところに土をかぶせて、その上に植樹をしていく「千年希望の丘」という動きをしたり、なかなか市長さんも意欲的な方でして、目に見える形での復興が岩沼では始まっているのですが、引き続き職員に聞きますと、どの業務も非常に職員の手が足りなくて、追われるように仕事をしているということですので、中野区としても来年度も引き続き同じところに支援をしていくということですけれども、私たちとしてはこの大震災の記憶をいつまでも忘れないで、全体としてどういう支援ができるのかということをずっと考えていかなければいけないなということを感じました。

以上です。

高木委員長

各委員からの以上の報告につきまして、補足、質問等ご発言がありましたら、お願いいたします。

山田委員

大島委員から発言がありました小規模校における若手教員の育成について、指導室長、現状と課題を少し教えていただけますか。

指導室長

小規模校に限らず、若手教員は本当にここ10年近くになりますか、ふえまして、ことしの異動においても、各学校１人は最低、新規採用者が来るという形になりますので、５年経つと５人の新採がふえると。

先ほど９学級というお話があったのですけれども、９学級だと専科２人ですから、11人中、例えば毎年来た場合には、そのうち半分ぐらいが若手教員となりますので、その研修については、以前にもお話をしましたが、法定研修である初任者研修があります。それから、２年次、３年次、４年次までは一応、教育委員会がイニシアチブをとった形での研修が設定されています。

問題は、そのプラスアルファをどのように行っていくかということで、ＯＪＴ（Ｏｎ　ｔｈｅ　Ｊｏｂ　Ｔｒａｉｎｉｎｇ）を各学校でやっていただいているのですが、そのほかに、本区ではマイスター制度もありますし、それから東京都では教師養成塾だとか教師道場というような幾つかのメニューがあります。私が校長会でお願いしているのは、当然、区で教育委員会主催の研修はそれでやっていくのだけど、それ以外のところにやはり、例えば３年ぐらいたって、ちょっとなれてきた、５年ぐらいたつと少し自信が出てきたところで、やはり他流試合に挑むというのですか、そういうところで、それぞれの地区で頑張っている先生がいるわけですから、そういう先生を見て、同じ年代の教員が、こんなに頑張っている人がいるのだということを知って、さらに自分を高めていこうというようなことが必要だろうということで、いくつかお願いしています。

幸いなことに、教師道場のほうは中野区からもかなりの先生たちが出てくれていますので、そういう機運はずっと高めていきたいなというふうに考えています。

山田委員

特に初任の方の場合には、東京都のほうの研修もかなりきちんとしたスケジュールで行われていると思うのですが、例えば単学級などですと、その先生が初任であると、もし研修に行かれた場合、授業はどのように組み立てていくようなシステムになっていますか。

指導室長

初任者が配置されると、後補充という教員が必ず配置されます。どうしても学級をあけて研修をするということが週当たり何時間と決められていますので、その場合、別の教員が入って授業をするという形になっていますので、その部分は、大規模校でも小規模校でもきちんとした手当てができています。

山田委員

ただ、複数クラスであれば、１組の先生がかわりに授業をして、専科の先生がその１組を見るというやり方ができるかと思うのですが、単学級の場合には後教員がいらっしゃるにしても、違う方が入るわけですよね。その辺は別に、子どもたちに対しての配慮は十分

にされているということでよろしいですか。

指導室長

後補充の教員の実力にもかかわってきます。正規の教員が今、それだけ大量に採用される状況ですから、そうやって後補充に入ってもらう非常勤の教員ですとか、一度リタイヤされたけれどもお手伝いしましょうという形でやってくれる方がいらっしゃるのですが、経験のある方がそこに入る分にはかなりの授業の質が担保できるのですが、後補充で入る先生が、ある意味、新任とほとんど同じような感じというケースもなくはないので、そうすると、やはり隣のベテランの先生がいて、アドバイスをしながらやっていくという形のほうがより望ましいというふうに思います。

高木委員長

先ほど、山田委員の結核健診の問診票の外国語版の件というのは、中野区ではどうなっているか、事務局のほうでわかりますか。

副参事（学校教育担当）

外国語版というのは用意をしてあります。ただ、ここに来て、結核の問診の内容などの見直しを検討委員会でしているのですが、やはり正確に翻訳する手だての確保が難しいということで、結核の対策検討委員会の中でも、どういう形で正確なバージョンアップをしていくかというのが課題として出ていて、今月の検討員会の中でも対応については検討していくということになっております。

山田委員

実はその会議でも、新宿区は先駆的にやっているだろうということで、新宿区の今の現状をお聞きしたのですが、確かに３か国語が今できているのだそうですが、新宿独自で翻訳したので、著作権があるからというような発言があるのです。そんなものに著作権が発生するのかなと私は思ったのですけれども、ということで、それでは東京都のほうでできませんかということになってきたのです。

やはり、各区独自でその言語にたけた人にお願いして、でも、それは統一的なものではないです。各区が独自でやっていると、それもちょっと変だなと思って、本来であれば国が定めた問診があるのだったら、それに対して今の時代ですから、バリアフリーという考えで、ほかの言語についても示せばよかったのが、それがおくれてしまっているというか、できていない。

東京都のほうも、それは国とまた違う問診をつくってしまったので、東京都もまだおく

れている。どうも、そういった現場の実情に合わせたことがきちんと届いていないというイメージが私にあって、多分、中野区も、今、いろいろな国の方々がいらっしゃっていると思うのです。だから、３か国語だけでもなかなか厳しい面があって、でも、我々学校医からすると、あの問診票がきちんとできていないと、全く次のステップに進めないということも現場では起きていますので、ぜひできるだけ速やかに対応していただければと思います。

高木委員長

意外と中野区はミャンマーの方などが外国人の割合で６位ぐらいにいたり、あとは、中野区は少ないですが、ポルトガル語圏の方というのはやはり英語がちょっと苦手だったりするので、英語、中国語、韓国語で８割、９割はカバーできると思うのですが、やはりそこに、苦手な人は諸生活全部、言語弱者になるので、やはりそこの配慮は東京都でしてほしいです。

副参事（学校教育担当）

実は、やはりミャンマーの国の方との対応のことも検討会の中の話に出ていて、現在は国際交流協会の通訳ですとか、それから学校に来ている通訳派遣の方を通じて、日本語版をサポートしてもらって、通訳を介してご理解いただくということを補足的にやって対応させていただいております。

山田委員

学校でのいろいろな情報ということになると、保健調査票もあるじゃないですか。あれでも、多分、諸外国の方たちは書けないと思うのです。あれがないと、養護の先生や担任の先生も非常に、健康的な情報というのがきちんと上がってこないと、例えばアレルギーのことなどは今後、問題になります。情報が収集できないということになるので、この辺も大きなこれからの課題の一つかなと思います。

特に、委員長おっしゃるように、ミャンマーとか、いろいろな国の方たちが来ていらっしゃっていることも事実ですので、その辺もぜひ前向きに、早目に検討していただければと思います。

教育長がお話しされた岩沼市は、仙台空港を有している市でございます。実は医師会も、震災があって、初動としては岩沼市医師会からのオファーが来て、あちらに重点的に物資を送ったことがあり、私も６か月たったところで岩沼市を訪れたのですが、あそこは市長さんが非常にしっかりしていて、一番先に震災復興計画を出して、国に予算計上している。

だから、比較的、被災した中ではいろいろな立ち直りが早いというふうに私は思っていますし、今の教育長のお話を聞いて、きちんとやっていけているのかなと思うのですけれども、やはり基本的にはいろいろなものを調査していく行政マンの数が足りないということはどこの市もあるようでございます。

それから、これは私の非常に親しい友人が南相馬市のところで被災して、南相馬の原ノ町というまちなのですが、そこは２万人いた住民がまだ戻ってきていない。5,000か6,000しか戻ってきていなくて、彼はそこで140床ぐらいの病院をやっていたのですが、病院としてその規模では、要するに入院がなかなか預かれないということで、彼は一大決心をして、そのまちを離れて、もう少し北の仙台市に近いところの市で、今度は復興再建計画という国の施策の中で、今まで持っていたスキルをもって、自分の職員たちを今まで確保していましたから、そこでこの６月から新しい病院の建築に取り組むと。それはやはり、その市が２万幾らかの人口を抱えていて、高齢化も進んでいるので、ぜひ病院をつくってくれということでやるのだそうです。

ですから、そういった、地域に住民が戻るためのいろいろな、病院にしろ公共的な施策が最初に入ってこないと、何で戻ってこないのかではなくて、安心して住み続けるようなまちをまず戻すために何が必要なのかというところを、下水道だとかそういったことを最初にやっていかないと、なかなか復興というのは難しいのかなというふうに、彼の話を聞いて思ってはいるのです。

ですから、これから特に東北３県は高齢化率が高いところなので、特に医療などの整備をしっかりしていかないと難しいのかなというふうに思っています。

高木委員長

事務局からの報告はございますでしょうか。

副参事（子ども教育経営担当）

ございません。

高木委員長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

私の委員長としての会議の主宰は、本日で最後となります。１年間、ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、教育委員会第９回定例会を閉じます。

午前１０時３０分閉会